現場経験強みにアプリ開発

第１弾は板金加工見積もり

エクスミュー（本社・札幌）は、現場の悩みを解決するアプリ開発に力を入れている。第１弾として板金加工などの簡易見積もりアプリ「ＩＴＡＤＯＲＩ」を無料でリリース。樹脂製品の設計や板金加工の経験を持つ中野源紀社長は、現場を知る強みを生かし「使う人の目線に立ってニッチなＤＸを提案したい」と話す。

使う人の目線でニッチなＤＸ提案

エクスミュー



ニッチなＤＸを説明する中野社長

同社は、ヤブシタホールディングス（本社・札幌）のグループ会社。設立のきっかけは、社内コンペ「ものづくりプレゼン大会」で、中野社長含む4人チームでレーザーネスティングアプリ「ＩＴＡＤＯＲＩ」をＡＩで開発し、実用性や収益モデルを発表したこと。さらなるアプリ開発などを期待され、5月7日に新会社が誕生した。

「ＩＴＡＤＯＲＩ」は、画面上で板材に部品を配置して見積書を作成する補助ツール。営業と現場のやりとりを省力化しつつ、競合他社に出遅れないよう提案スピードを上げられる。必要な機能や入力項目を盛り込み、ＰＣ版を5月25日にリリースした。

今後は見積もり精度を向上させ、出先でも使えるようiOSとＡｎｄｒｏｉｄのアプリを公開する予定だ。

アプリ開発は、ＡＩエージェントのプログラマー「カール」とＵＩデザイナー「アン」が主に担うが、ＡＩだけで顧客の細かいニーズを満たすのは難しい。中野社長は「一部のコードは自力で書くことが大切。現場のイメージ通りのアプリを完成させれば、他社と差別化できる」とし、プログラミングの勉強を続けている。

ヤブシタＨＤは、さまざまなソフト開発に力を注ぐ。営業関連の内部システムや機器の維持管理マニュアルのアプリ化など10以上のサービスを構想している。建設関連では、設計書や仕様書の管理を効率化。付加価値として売り上げデータのひも付けやＡＩ検索の機能を持たせることで、顧客対応スピードの向上や仕事の属人化防止を図る。

中野社長は「図面は会社の財産。知識を蓄積し、過去から学び、次に生かすために欠かせない」とし、年内に正式版リリースを目指す。



ＩＴＡＤＯＲＩで見積もり速度を高める